上田地域もの・こと交換制度
蚕都くらぶ

ま～ゆ

蚕都くらぶ・ま～ゆ会報

No.41

2008年5月10日 発行

わたしたちの願い

蚕都くらぶ・ま～ゆという上田地域通貨モノコト交換制度は、地域で暮らすひとびとがお互いに助け合って楽しく暮らすための制度です。

私たちは、この地域の豊かな自然やひとびとの知恵・技術・経験・人柄を地域の宝と考えます。その宝を活用することで、より豊かな地域と人間関係を目指しています。

蚕都くらぶ・ま～ゆは、地域通貨を使って人と地域をつなぐシステムです。

- ❖ 人と人との新しい関係が生まれます。
- ❖ 自分の能力を再発見できます。
- ❖ 人が活き活きすることで、地域が元気になります。

ま～ゆ寺子屋　「海外から見える日本」を聞いて

No.68 大野満里子

「週間上田」で長谷川さんの旅行記を拝見していましたので、～チェコに暮らして～と 聞き単純に旅行談の様なものを想像して参加いたしました。

しかし内容は、学生時代の世界史の授業を思い出させるようなものでした。

ご自身が生のニュースに触れる事の出来る環境にあったとはいえ、新聞、書物、日本や海外のニュースからの豊富な知識に基ずく講演でした。社会情勢論、政治論、経済論とも言えるかも知れません。

海外を経験すると日本が見えてくるのではないかと言われましたが、確かに、日本に生活していただけではわからなかった日本の良さ、改めるべき点などが実感出来ると私も思います。

ベルリンの壁の時にその場にいた、ソ連がロシアに変わる時にシベリヤ鉄道に乗っていた等、貴重な体験もされたそうです。そしてこの事が物の見方を変えたとも話されました。

収入が多くても日本は豊かであるといえるだろうか？

生活が豊かになれば心の豊かさが買えるのだろうか？

見合った範囲での豊かさを求めるという生き方――助け合いの生き方――、それが“ま～ゆ”の生き方であり、“ま～ゆ”を広めることが社会を豊かにするのではないかと締めくくられました。

私の隣の席の女性は一般参加の方でしたので、ま～ゆ”とは何かと私に色々と質問をされました。“ま～ゆ”の宣伝の効果もあったようです。講座の参加者の半数は一般参加の長谷川さんのファンの方達だったようでした。

司会の安井さんの「日本は本当に独立国なのだろうか？」という問いかけも重い宿題のように思えました。

次の寺子屋は

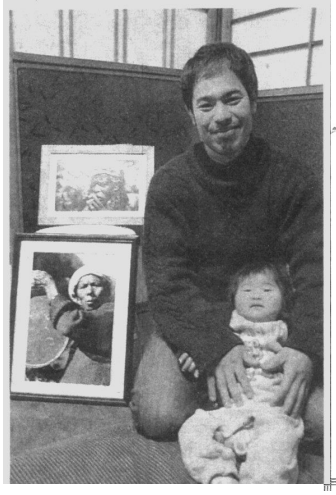
Part Ⅱ

6月19日(木)夜7時から
中央公民館 視聴覚室

東ティモールと繋がる私たちの暮らし

2002 年に独立した東ティモール、
その背景に何があったか？
日本はどの様に関わったか？
独立に立ち会いその歓喜にわいた
東ティモールを撮影した直井が何
を感じたか。
そこから何が見えたか。
を話したいと思います。

No.229 やすこと直井保彦



談話室

「初めて東ティモールに行き、夢中で撮った写真を周りの人に評価してもらえた。自分が人に何かを伝える手段は写真なんだと思い、写真家を志した」。上田市で昨年12月、ライフワークともいえる東ティモールの人々の姿を写した写真展を開催。故郷の名古屋市から移り住んだ上田では、初めての写真展だった。

大学卒業後に就職した三重県の温泉施設で、団体旅行の記念撮影を担当したことが、カメラに興味を持つきっかけだった。妹の知人を通じ、フリージャーナリ

生命力満ちた表情残す

ストから東ティモールの情勢を詳しく知ることができ、関心を持った。東ティモールが独立を迎えた2002年に初めて訪れ、これまでに約1800枚を撮影した。

「東ティモールの人々は貧しいが、顔には生命力が満ちている」。生きるために働く彼らと接する中で、日本人は働くために生きている―。そんな気がするようになった。「日本人がなくしてしまった表情を、自分の写真で残したい」と思う。

上田市別所温泉で、昨年２月に生まれた長女の朝子ちゃん、同市出身の妻の恵さんと３人で暮らす。

信濃毎日新聞 1月30日

昔なつかし、味噌づくり体験！

No.230 ぐんちゃんこと直井 恵 ↑

はじめまして。２月にま～ゆの会員になりました、ぐんちゃんです。出産を機に、生まれ故郷である信州上田に帰ってきて、今は別所温泉で夫と娘（１歳）と 3 人で暮らしています。１０年ぶりに帰ってきた上田で地域通貨の活動があることを知り、夫と一緒にま～ゆに参加させていただいています。

みそづくりは、昔小学生くらいの頃､祖母の手伝いをした記憶があるのですが、本格的なみそづくりは、今回が初めてでした。

私が参加したのは、最終段階。ゆであがった豆をミンチ状にし、こうじと混ぜる作業でした。ま～ゆの皆様はもうかなり手慣れたご様子で､ささっと豆とこうじを混ぜています。私もまわりのみなさんの真似をしながら、こうじと豆をよいしょよいしょと混ぜました。単純な作業のようにみえても、普段しなれない体勢です。腰や腕が少しずつ疲れてきてしまいました。すっかり鈍ってしまっている体を痛感しながら、何度も何度もよいしょよいしょと混ぜ合わせました。出来上がったみそ団子の山を、何度も崩してはまた同じ作業で混ぜ合わせ、それを３，４回繰り返したところで終了です。

この日は沢山の方がいて、みんなの豆とこうじを混ぜる作業をみながら、昔もこんな風に隣近所、家族総出でみんなでみそをつくっていたんだろうな～と感じていました。みんなで助け合うことが当たり前の社会じゃないと、こんな風に手作りでみそを造ることなんて絶対無理！とみそづくりに参加しながら思いました。そして作業中も、女性ならではのおしゃべりが続きます。手仕事文化が生き残るためには、こういう井戸端会議はやっぱり必要な要素ですね！

各自持ってきた容器にペタンペタンとみそを入れて、あとは美味しく発酵するのを待つばかり。昔おばあちゃんと同じ作業をしたことを思い出しながら、懐かしいみそづくり、楽しく参加させていただきました！食べるのが今から待ち遠しいです。

2008 年度 味噌プロジェクトスタート

今年から ま～ゆ味噌プロジェクトは、「原料大豆」を作付けすることから始めます。

したがって､できるだけこの作業から参加していただいて､「安心かつ格安」そして「美味しい」味噌を「協力して」作りたいと思います。3 月 18 日の説明会で この方針が決まりました。

改めて新年度の参加を募りますので､説明会の出欠にかかわらず、下記の要領で参加の申し込みをしてください。（5 月末日で締め切ります）

① 氏名（家族の場合は連名）

② 味噌の希望購入量

- ❖ 書面で申し込む場合は、寿限無宛に手渡しまたは 郵送で提出してください。
- ❖ メールの場合は､dodohei@sea.plala.or.jp に送信後、返信メールが届いたことを確認してください。

※ 万一数日経っても返信メールがない時は電話等でお問合せ願います。

↑ 大豆の選別も楽しいひと時

平成 20 年 須川プロジェクトだより

疲労坊&ごんべえ

須川プロジェクトも7年目を迎えました。いろんな思いを込めて始めた「この指止まれ」でしたが、計画通りに行っているとはいえません。しかし、あまり背伸びをせず地に足をつけて、一歩一歩自給生活に向かって楽しみながら汗を流しましょう。食を取り巻く環境は、確実に変わってきているのです。

ところで残念な報告です。須川ではこの3月、畑を提供してくれ、私たちとの交流を楽しみにしていてくれた手塚幸雄さん（あの腰のくの字に曲がったおじいさん）と炭焼きを教えてくれた横林正信さんが相次いで亡くなられました。ご冥福を祈ります。

田植えのおしらせ

✲ 日　時　6月1日（日）
　　9時から お昼頃まで
✲ 場　所　ま～ゆ田んぼ
✲ 持ち物　お弁当、おやつ、飲み物、
　　田植えスタイル(天候によっては雨具)

※　昨年は育苗に失敗しました。
　今年は秋和菜園で再度挑戦しています。

平成 20 年度須川プロジェクト作業計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
田んぼ		春起し（上旬）	**田植え**（1日）	田の草取り（中旬）	田の草取り（上旬）	落水（1日）	田起し（中、下旬）	**収穫祭**（10日）
		育苗管理（1日～31日）	田の草取り（中旬）	中干し（中旬）		畔草刈③（上旬）		
	筋蒔き（下旬）	田植え準備（22日～31日）	畔草刈①（下旬）	畔草刈②（下旬）		**稲刈り脱穀**（下旬）		
畑	畑作り（上、中旬）	かぼちゃ植付（上、中旬）	さつま芋植え（上旬）	じゃが畑除草（中旬）	じゃが芋収穫（上旬）			野沢菜収穫（上旬）
	じゃが芋植（中旬）	麦畑除草（中旬）			野沢菜蒔き（中旬）			麦蒔き（中旬）
			麦収穫（下旬）		かぼちゃ収穫（中、下旬）	さつま芋収穫（下旬）		
その他			**ほたるコンサート**（下旬）		グラウンド草刈（上旬）			
					ジャガパー（10日）			

吉崎酒店　No.126吉崎
●輸入元より直接仕入の厳選されたワイン
●和・洋酒各種・又健康に良いものいろいろ
●全商品５％まで「ま～ゆ」をお使い下さい
上田市中央3-7-7 TEL22-0300 Fax22-4525

甲田はきもの店　No.39 甲田
●ご利用金額の10%まで「ま～ゆ」をお使い下さい
●靴、草履、下駄などの修理は20%まで使えます
上田市中央4-6-24
TEL22-1272

信濃毎日新聞 4月28日

「マイはし」作り 環境保護考える

上田で「アースデイ」

上田市舞田の幼稚園「おひさまクラブ里山こども園」で二十七日、地球環境や自然保護を考えるイベント「うえだアースデイ」が開かれた。無農薬栽培の農産物販売や古着などのバザー、竹製の「マイはし」作りといったコーナーがあり、家族連れでにぎわった＝写真。

市内の主婦や公務員らの実行委員（直井保彦代表）が主催。カレーやりんごジュースの販売では、プラスチックの食器や竹製コップを使い、飲食後に返してもらうことで、ごみを出さないようにした。

家族で訪れ、「マイはし」を作った斉藤美穂さん(29)＝同市緑が丘＝は「一人でも多く、こんなちょっとした工夫に興味を持てればいい」と話していた。

うえだアースデイに参加

連休初日４月27日の〝うえだアースデイ〟は前日の雨がうそのようにさわやかに晴れ、桜の花びらが舞い散る中、スタッフも出店者も外部からのお客さんもまぜこぜで、遊び、話し、笑いあい、アースデイらしくゆったり過ごす一日になりました。

こんな風に「顔のみえる ゆるやかなつながりの中で暮らしていきたい」とあらためて実感しました。

ま～ゆのおやきはあっという間に売り切れましたね！
朝早くから作ったできたてを、それもイガチク、手作りの中身で すっごい満足度高いのに、なんと８０円！！
ま～ゆのメンバーもたくさんきてくださり、会を盛り上げていただきました。

別所線を使って来場してくれた方は予想をはるかに超えて５０人近く！
提案して応えてくださる方の多さに感動と共に大きな可能性も感じました。
ま～ゆのみなさんも車を乗り合わせたり、電車を利用してくださり、主旨を理解してくださって さすがです。

きっとアースデイとま～ゆの目指すところは近いところにありますね。

ご参加、ご協力、ありがとうございました。
大感謝です。

アースデイスタッフ一同

なんとかしたいとおもった、わたしにできること

たまには キャンドルナイトで 過ごそう。おふろでもいいよ。

水筒をもって歩こう 朝いれたお茶で 1日過ごせます。

早寝早起 おひさまと共に

ビール買うなら 缶よりびん

まうきって けっこう使える

ふだんのそうじは まうきで。 出し入れもおもしろい。

省エネ製品 電球をきかえる〜 電球型蛍光灯は 電球の1/4の消費電力、 寿命は10倍

自分らしくいきましょう。 笑って、楽しいことなら 1まねしませんか。

もし、いらないなら 新聞の折り込みチラシ、 ことわりましょう。

次に買う ラジオ・ライトは、 手巻き発電式は どう? 非常時用に有ると安心。 自分で発電できるなんて すごい!

暮らしの中でできること

もっとゆっくり コンパクトに たのしんで続けること

エコバッグ使おう

もし忘れても、手で持って 帰ってもいいし、 手持ちのカバンにも けっこう入るかも。

ファンヒーター・CDプレイヤー・ 炊飯器・TV・コタツ… 使わない時はコンセントを抜いて 待機電力もったいない

湯たんぽいいよ

茨城やさんで昔ながらの ブリキの湯たんぽ売ってます。 おふろのお湯をペットボトルに 入れるだけでも寝入るまで あったかい。

自転車に乗ろう

自転車で行ける範囲で 用事を済ませる。 地元のおみせが元気になる!

有機野菜を買う 無農薬 国産の食品を買う 地元産のものを買う → 生産者を支える。 がんばってる 大切!

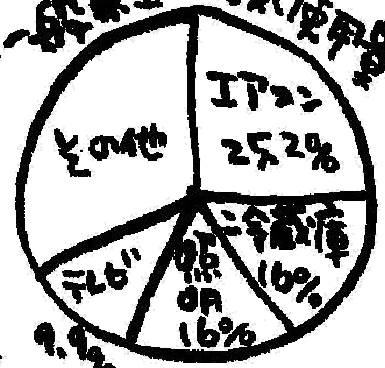
◎国産・地元産だと、 運搬に消費される エネルギーが少ない。 (フードマイレージ www.food-mileage.com)

高くても良質で長く使える ものを選んで買う → 文化・産業(作り手) を支える。

◎買いものは投票です。 支えたいお店、企業のものを買いましょう。

支える

一般家庭の電気使用量



(出典:省エネルギー庁)

家族でくらしTIMEをつくろう

一つの部屋にあつまれば 光熱費が少なくてすむ。 使用の少ない部屋は家族の平和がある

冬は厚着、夏は薄着

厚着すれば暖房を ホドホドにすみます。

議仲さんが 使ってる 太陽光発電のある ソーラー ジュースバック

わたしたちは未来を創っています。 今を重ねていきましょう。

六ヶ所会議 inうえだ・作成

今回のテーマ

ま～ゆ長屋の縁台ばなし

上田と写真

№136 **にゃんこ先 生こと 竹内紀子**

私の受講している上田社会教育大学の文学科講師、平野勝重先生と歴史学科講師の尾崎行也先生はこの10年ほど『墾』という文芸小冊子を季刊で発行されていました(今年３月休刊)。その中に、「上田写真館」というページがあり、上田藩の最後の藩主、松平忠礼がたいへん写真好きだったと書かれています。その影響もあってのことでしょう、上田は県内でも早くから写真館がいくつも出来た町らしいです。忠礼(左写真・上田市立博物館ＨＰより)の写真がたくさんあるのはもちろんのこと、幕末から明治にかけての写真が比較的よく残っているそうで、『墾』にも、幕末の侍、明治の軍人、士族の女性、塩田平の農家の老夫婦などなど、古い写真が紹介されています。

上田では現在、映画ロケが盛んに行なわれていますが、映画の町である以前に写真の町でもあったのですね。アメリカで商業写真家として活躍したハリー・K・シゲタ(1887～1963)の出身地でもあります。こういうことって、ご存知の方はよく知っているのでしょうが、知らない人も、とくに若い人たちの中には、多いのではと思います。「写真」を上田の観光の目玉のひとつにして、旧石井鶴三美術館の建物を「写真記念館」として利用したらいいのになあ、と思います。

コヨリの写真とズクなしの自分

№50 **都々平こと前田光俊**

猫

12 年半、家族の重要な一員としてわが家に君臨していたコヨリ(雌猫)が 2 月 17 日あっけなくあの世とやらに旅立ってしまった。昨年あたりから衰えが目立ち始めて、階段すら上りたがらなくなってきたので、来るときがきたのだろうが、そしてそれを覚悟はしていたつもりだったけれど、毎日密着していただけに(正に猫可愛がり)この子の姿が消えてしまった寂しさは言いようがないほどだ。

コヨリの写真は生後 1～2ヶ月くらいに面白がって撮ったものと、この 1年くらい前の近影とに大別される。後者は意識して「元気な姿を」収めたもので、こうしたことが今となって本当によかったと思っている。時折この写真に密かに「コヨリちゃーん」と呼びかけているのはミーすけも知らないだろう。

私が小学生の頃から、わが家には殆どいつも猫の姿があったので「これからはもう飼えない」と思うとコヨリという猫の存在は格別に重いものがある。

アルバム帳

私の写真アルバムは、モノクロからカラー写真に代わる頃から次第に整理がずさんになり、旧式アルバムが売り場から消えて「コーナー不要 ズクなしむき」ばかりになってからは アルバムに整理するズクが消え失せてしまった。粘着ビニール圧着式が気にいらなかったからでもあった。私の予見どおりに 10年も経たないうちに台紙の縁は薄茶色に変色して汚らしく、アルバムを開く気にもなれないほどで、それからはストックブック式(ただ差し込むだけ)の利用と、袋に詰め込む“無整理”に変わって、現在に至っている。

但し、正しくは「現在はパソコンに納まっていたり いなかったり」のいい加減が幅を利かせている。“ま～ゆの本”を編集したときに「あの写真はどこにあるのだろう？」とパソコン本体やMOのフォルダにCDを開きまくり探しまくったときには「アーぁ、きちんと整理して置けばよかったのに」と大反省したものだが、いまだにその苦い経験が活かされていない。よくよく〝ズクなし〟なんだろうなぁ。そういう自分に呆れる思いだ。

写される自分

№229 **やすこと直井保彦**

写真とは僕にとって何かを伝えるための媒体だ。
写真は僕に様々な事を気付かせてくれた。
感じる事の大切さ。
生きる事。
全ての事がつながっている事。
1人では生きられない事。
他、知らない内に自分の中に入ってきている事もあると思われる。

写真は1人では撮れない、たとえ良い写真が撮れてもそれは撮った人だけの物ではない。
まず被写体ありきである。米や野菜が自然(土、太陽等)ありきなのと同じように。何を撮ろうと思ったか、その目と心と行動である。
僕は写真を学んだ訳ではないし、決して上手でも無い。何が上手かも分かってない。
ただ、東チモール、フィリピン(パヤタス)、身近の様々なものを感じ撮っている。

2002年の夏、不思議な体験をした。
北海道の東、阿寒の近くにオンネトーと言う湖がある。そこで散歩をしていた時だ。湖の傍らに倒木の根が残り、そこであたかも湖を見守っている様だった。僕は写真を撮ろうとファインダーを覗いた。すると、その根が神だとふっと気付いた。あっそうか、神は人の心の中にいるんだと漠然と思った。とてもすっきりし、まるで難問が解けた気分だった。

こんな事もあった。
東チモールで写真を撮り、仕上がった写真を見ると、自分が南方系の顔をしているせいもあるが、皆が自分に見えてくる。「あっこの人も僕だ」「あっこの人も」そんな具合に。その時、人は何にでも成りうるんだなと思った。
戦争をしかける側にも、亡くなっていく立場の人にも・・・人だけでなく動植物にも・・・。なる程、全てはつながっているんだ。大地を傷付ける事は、自分を傷付ける事だと思った。そうなると、自分で自分の首を絞めている人が何て多いんだろうと思った。

きっと姉妹

テトゥン語で姉妹はビーンアリンと言う。ビーンが姉でアリンが妹。
血のつながりが無くてもビーン、アリンと呼び合う。
皆、兄弟、姉妹だ。

僕は写真を見ていただき、様々な事を感じて欲しい。やはり僕にとっては何かを伝える媒体だ。
それが、ある人は歌だったり、文章だったり、僕は写真だ。
写真とは、僕を成長させてくれた ありがたい存在である。

一枚の写真

№158 **上野博子**

私にとって写真はというと、モノクロ・キャビネのこの一枚に限られる。写っているのは昭和十九年初夏の飯田市竜江(たつえ)の田園風景。見えていないが堤防の向こうを天竜川が流れている。真ん中にかたまって麦藁帽子の女学生が二列で。モンペと、和服みたいに合わさる衿の絣の作業着姿。みな立てた草掻きを掴まるように手にしている。
麦刈りの済んだ地面に腰を下ろした前列の五人が一年生。後に立った五人が専攻科と四年生。一年生には上級生というより小母さんのように見えていた。どういうわけか、私は一年生なのにその右端に立っている。
誰かがこんな畠にまで天竜峡駅前の写真屋を呼んで撮らせたのだ。勤労奉仕ばかりのまま卒業していく後列の人たちが記念にと考えたのだろう。
画面の上半分は戦争が敗戦への坂道を転がりかけた頃の白い空。その下におとがいのあたりに邪気の無い笑いを浮べた十三歳の私がいる。かけがえのない記念写真だ。

ま～ゆ長屋の縁台ばなし

タイムカプセル

№3 ホーおじさん こと 黒 田 弘 志

先日、思いもかけない写真に出会った。80年近く前の母(写真前列左)だ。
ぽちゃっとして無邪気。まだ3才ぐらいか。まるで母のひ孫かと思わせるが、実は本人。恐ろしいほどの「時の衝撃」。タイムカプセルから子供時代の母が飛び出したようなショックだった。当の本人さえ、そんな写真があるとは知らなかった。びっくりだ。思わず「可愛いな～」と言ったら、意外に素直に「そうだらあ」と嬉しそうな声が帰ってきた。久しぶりに母の無邪気な笑顔を見た。良い写真だ。

瞬間芸

№4 い じ こ こと 黒 田 敏 子

我が家にやってきた生後 3 ヶ月のシバの雑種「ポロ」。家で買うのはこれで 4 匹目。すべてメス。この腕白盛りの犬を撮影するのはたぁーいへん。
生後 2 ヶ月の頃、暗い玄関に行けなくて、投げたタオルを持ってくるのに必死。 可愛いその姿をカメラに収めるのは正に瞬間芸。だからその写真は残念ながらないのだが、タッチしてる 1 枚を。今度は二階へ上ったものの降りられずに尻込みして キュンキュン言っている一枚を狙おうと思う。

ま～ゆな人

№.141 マルちゃんこと丸山久美子さん

ま～ゆの会計を担っているマルちゃんは、上田市常田出身の昭和23年9月生まれ団塊の世代です。
現在は自営の自動車工場の経理担当。夫唱婦随で頑張っています。

ま～ゆとの出会い　不思議な親しみ

ま～ゆとの出会いは4年ほど前に、知人の三井幸子さんに誘われてミステリーツアー（清津峡）に参加したことがきっかけ。車酔いで体調が悪かったのであまり喋らないし、それに歌も苦手だから唄わなかったそうです。「あまり楽しくなかったのかな？」と心配したら意外にも反応は逆でした。初めての参加なのにま～ゆの人たちとは昔からの知り合いみたいで不思議な親しみを感じたそうです。

おとなしい子供だった

マルちゃんは上田生まれの上田育ち。姉と弟の3人姉弟の真ん中。子供時代は引っ込み思案でとてもおとなしい子供でしたが、高校時代で大変貌したそうです。
団塊世代なので小中高ともに生徒の数もクラスの数も多かった。高校は上田東高校。クラスは50数名で教室の後ろまで机があった。クラスの女子は8名だけ。男だらけの高校生活なので知らず知らずに自己主張して逞しく変貌。部活は新聞部。記事を書くより もっぱら先生の話を聞くのが楽しみだったそうです。

模範社員で表彰される

高校時代に人前に出るのが楽しくなったマルちゃんは「将来は接客業をやりたい」と決めました。そして念願が叶ってイトーヨーカドーに入社。東京郊外の新店で子供服担当の充実した生活が始まりました。当時のイトーヨーカドーは成長期に入った頃。全社数千人の慰労会など2ヶ月に一度の盛大な社内行事が楽しみだったそうです。一番嬉しかったのは、勤務して3年目の全社新年会で「模範社員」として表彰されたこと。マルちゃんは当時を振り返って「損得を考えないで、人の嫌がる事も積極的にやった」のが評価されたと謙遜。自分のことを「まじめな田舎人」と言います。きっと、このあたりが「ま～ゆ精神」と共通するところでしょうか。

ま～ゆが楽しみ

- **畑仕事が楽しみ** 農作業はま～ゆで初体験。今ではジャガイモ・レタス・ブロッコリー・キャベツ・アスパラ・ネギ・サヤエンドウなど何十種類も栽培。野菜はほとんど自家調達。とても楽しみ、もっとやりたい。
- **ミステリーツアーが楽しみ** 懸案の「車酔い」は、これもま～ゆ交換でまめちゃんに処方してもらって改善。
- **これからの挑戦** 「パソコンのレベルアップ」と「音痴の改善」に挑戦！

まじめにコツコツ

自営業者として独立して30年弱。事務所でマルちゃんに話を聞いている最中もお父さんは自動車の整備に一生懸命。まじめにコツコツと夫婦で頑張っているんだなー。と、勝手に「仲良し夫婦」を想像してしまいました。

ホーおじ 記

ま～ゆな人

今回は会員番号147番 かっとまんこと 河野孝志さんをご紹介します

東京生まれ、神奈川県藤沢市で育つ、いわゆる湘南ボーイ？

藤沢市は戦後、東京のベッドタウンとして急速に発展し、高校の先輩、石原慎太郎の「太陽の季節」や加山雄三などのおかげで湘南地方として有名になったところ。もともと気候は温暖だが、砂地でサツマイモしか取れず、岩場のない一直線の長い砂浜で、大きな河川もない海岸は漁業にも適さず、結核療養所しかない、静かで目立たない町だった。その波の荒い海岸が「サーフィンを楽しんだり、箱根駅伝の名所になったりで、分からないものです」

両親は共に江戸っ子で、焼け出される前に東京を脱出しようと、東京近くで、産業が無く、空襲の心配がない疎開先として藤沢を選んだ。

小学校低学年の頃は教室と先生が足りず、午前と午後の２部授業中で、ズックのランドセルを背負って、下駄を履いて学校に通っていた。ランドセルはクラスに２，３人位だけで、あとは風呂敷だった。お弁当を持って来られない子もいたけれど、その頃は、皆で分けあって食べていた。昭和20年代はそんな時代であった。「あの時代の方が格差はあったが、皆で仲良くやっていたように思う」と、かっとまんさんは話した。

高校進学の頃は身体が弱く、満員電車での通学が無理だった。学校名が地方の名前になるほどの名門校 進学校として知られた県立湘南高校を、自転車で通えるという理由で受験した。

入学すると誰も勉強の話などせず、当時流行りだした予備校にも行かず、学校側も校則など適当でよく、「世間に恥ずかしくないと自分で判断できれば、学生生活を楽しめ」と指導されたという。

お陰で健康は取り戻したが、卒業が近づくと「いつの間にか成績は最低、落ちこぼれになっていた」とか。「本当に勉強しなかったのは一握りの秀才、天才だけで、多くの学生は家で夜遅くまで勉強していたらしい」と、かっとまんさんは苦笑い。

大学を卒業してから商社に入り海外との仕事をしていたので、ま～ゆのニックネームを使う習慣に違和感はなかった。（アメリカ等ではビジネスでも、ニックネームで呼び合うのが普通だったので…。しかし、イギリスでは、あまりニックネームでは呼ばないとか。お国柄？かな）

理工系の商社マンの奔（はし）りで、セールスエンジニアという言葉も入社数年後に広まってきたという。当時、営業と言えば一般的に相手に嫌われないようにすることで、理屈っぽいと思われるような説明は避けるべきだと言われていた。実際には、尊敬できる先輩は丁寧な言葉使いだが、相手に迎合せず、しっかりと主張していたのが その後の海外交渉に参考になった。

そんな立場から、交渉のコツのアドバイスをいただきました。

＊ コチラの考えは理路整然と徹底して説明する。
＊ 同意する必要は無いが、内容を十二分に理解するために相手の考えを徹底的に聞く。
＊ 侃々諤々（かんかんがくがく）の議論を避けるべきでないが、相手のプライドは傷つけない。

ところで、こちらへ来たキッカケをお聞きすると、

営業を離れ、管理部門で海外債権の管理業務をしていた時、会社から上田の取引先企業で 経営のサポートをしないかと声をかけられた。上田は「スキーに来る途中にある町」程度の知識しかなく、取引き先の業界については全く知らなかった。当時日本では終身雇用の時代だったが、海外生活の影響で、そろそろ転職もと考えていたし、海外での プロジェクトマネージメント経験から、必要な業界の知識や経験は優秀な社員の助けを得れば良く、経営のサポートは可能だと信じ、53歳で転職を決断した。「全てのことを一人で出来る人は少なく、なまじ業務知識と経験があるため、担当業務に 口出し、それが経営だと勘違いをしているケースが見られる」と力説。

そうして、ま～ゆ入会のきっかけは・・

本人はプールで知り合ったハコさんに勧められ、奥さん（ちゃーこさん）は三井さんや大久保さんに勧められて、夫婦同時に入会。

現在は毎月ま～ゆ市の受付で“さなぎ”のハンコを捺す役をしているが、世話人会等で意見のまとめ役として、ま～ゆには なくてはならない存在に。

また、家の近くでは菜園をご夫婦で楽しみ、マメトラまで買いこんで田舎暮らしを楽しんでいる。

・・いつもはインタビューで、わたしのペースにひきこんでしまうのに、今回ばかりは、〝かっとまんペース〟に引き込まれてしまった感が否めません。と同時にここに載せたのは聞き取った部分の三分の一位です。まだまだ隠しだまのようなお話は、たくさんお持ちです。 何かの機会にぜひ皆さんに披露していただけたら、と思いました・・。

そんな「かっとまん」さんでした。

コボル 記

ニックネームの い・わ・れ

ま～ゆ会員にはユニークだったり、難解なニックネームを つけた人がたくさんいらっしゃいます。
その「なーに？」から聞き出してみましょう。

今回は No.231 **どんちゃん**こと **中村みのり**さんに登場していただきました

「どんちゃんのニックネームの由来は？」と尋ねると「どういうわけかバイク仲間から呼ばれていました」との返事。「みのりさん」がどうして「どんちゃん」になるのか不思議ねと話をするうちに、人形劇ひょっこりひょうたん島の「ドン・ガバチョ」の「ドン」もあるかなと言うのです。ガバチョってなんとも憎めない海賊だったっけ。あっけらかんで明るいみのりさんにぴったりかなと思いました。

どんちゃんのことは、孫の手さんから聞いていた話があります。数年前、縁舎の改築工事をしていた頃のことです。「あの重いコンクリートの U 字溝を軽々持ち上げる子がいるんだよ、気取らないいい子だったよ」と。どんちゃんにその事を尋ねると、「U 字溝のことは思い出せないけれど」長野大学の 4 年生で横山ゼミをとっていて、(ま～ゆに参加したそうです)。みっちゃん先輩が地域と学生の拠点作りをしていた時に、縁舎の壁塗りなど手伝った、とのことでした。

それから、のび太さんからは西部公民館主催の太郎山縦走路の整備に連れて行ってもらい、仲間と草刈に参加しました。きびきびよく働くので「周りのおじさんたちに とてもかわいがられたんだよ」と、その頃ごんべえさんが話していたのを思い出しました。

長野大学を卒業して静岡に帰り 4 年間 勤めをしていました。その間にバイクが好きだったお父さんの影響で、免許を取りました。初めは一人で乗り回していましたが、だんだん仲間が集まってきてレディースツーリングクラブができ、遠くまで足を伸ばし楽しんでいたそうです。

ところが また上田に住む事になりました。なんと結婚相手がこちらの人だったのです。
久しぶりの上田です。知り合いも無く、昼間は一人ぼっちで、1 ヶ月、ただワイドショーを見ているだけの生活が続きました。寂しくて心細くて、仲間が欲しいと思ったとき、上田に「ま～ゆ」があったことを思い出しました。「まだ活動しているだろうか？」記憶に残っていた孫の手さんに連絡をとったところ「やっているよ、入りな」と昔と変わらない孫の手さんの暖かい言葉が返ってきたので、早速再入会しました。

何事にも前向きなどんちゃんは「ま～ゆ」に入って直ぐのま～ゆ寺子屋「チンタラ百人一首」に参加しました。親子ほども年齢差のある中に自然に溶け込んで、筆者はとても積極的な印象を強くしました。

それから「ま～ゆ」とのかかわりはまだあります。街中でバイクが動かなくなってしまって困っていた時、たまたま ま～ゆ寺子屋が終わって家路に帰るごんべえさんとバッタリ出会いました。
ごんべえさんは直ぐにまるちゃんに連絡をとって、自動車屋のご主人に見てもらうことができ、めでたく解決しました。彼女はよくよくま～ゆに縁があるようです。

インタビューをしていた時、どんちゃんはベランダに降りたヒヨドリを見つけ「あ、鳥、私ブンチョウ飼っているんです。」と言いました。学生のときからで、8 年も面倒を見ているそうです。黒いサクラブンチョウで手に乗ったり、部屋を飛んだり かわいいそうです「でも、毎日の世話は大変でしょう」と聞くと、「ちっとも、苦になりません。ふんは紙でちょいと片付ければいいし、水は毎日換えます」と鳥が大好きな様子でした。

学生時代に始めたスキーやスノーボードも楽しみたい。お酒も付き合いできるぐらいはいけるそうです。
「ま～ゆ」のみなさんには「いろいろな事に誘ってください」ということでした。これから田植えなど楽しみにしているそうです。

ミーすけ 記

本の紹介

by　会員№136　にゃんこ先生

いとうひろし　著　・　講談社

だいじょうぶ　だいじょうぶ

今年３月、『砂漠でみつけた一冊の絵本』（柳田邦男 著）を読んだヒデさんが、その中で紹介されていたこの本を知人にプレゼントしようと買ってきました。実は私は『砂漠で～』の内容にはあまり新鮮なものを感じなかったのですが、この本だけは読んでみたいと思っていたので、プレゼントしてしまう前に読ませてもらいました。

小さい男の子だったぼくが何か怖いことや困ったことに出会うたび、いつもおじいちゃんがぼくの手を握って「だいじょうぶ だいじょうぶ」と言ってくれます。するとぼくは安心して、やがて、世の中そんなにわるいことばかりじゃないんだとわかってきます。ぼくが成長した今、おじいちゃんは病の床にいます。今度はぼくがおじいちゃんに「だいじょうぶ だいじょうぶ」と言う番です。

確かに子供の頃、おとなになることを時に恐怖に感じました。今は守ってくれるおとながいるからいいけれど、おとなになったら、たとえば大嫌いな虫などにもひとりで立ち向かわなければならないのですから。

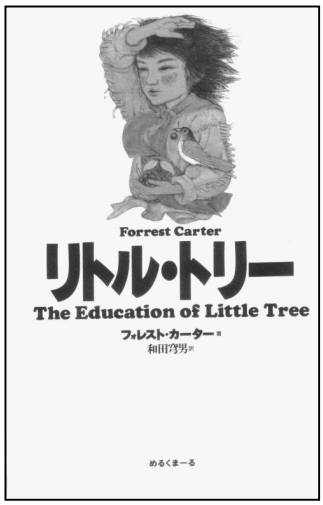
でもこの本は、おとな、もしくはおとなになりかけた人のための本だと思います。

わたくしごとですが、昨年 11 月から日照時間の関係か、不調で、毎日生きるのがほんとに闘いでした。毎晩カレンダーのその日の日付をマジックでバッテンして消していました。毎晩がでくのぼう状態。何ひとつ出来なくなっていくような無力感と息苦しさが襲ってきた時には、井戸を覗き込むように、ウツの深淵を覗き込んでいる自分が見えました。一番イヤだったのは、毎夕５時頃になるとやってくる説明のしようのない漠然とした不安でした。

で、その頃、すがれるものにはなんにでもすがりたい一心で、よく本屋へ行って、救いの言葉を求めていろんな本をめくってみました。たくさんの言葉を得ましたが、要約すれば、「だいじょうぶ、だいじょうぶ、何も心配することないよ。」でした。それが多分私が求めていた言葉だったんだと思います。

つまり、いい歳のおとなだって、「だいじょうぶ だいじょうぶ」って言って欲しいのです。誰も言ってくれる人がいなかったら、自分で自分に言えばいいのです。「だいじょうぶ だいじょうぶ」って。いつだって、何回だって。

春が近づくにつれ、私の調子も上向いてきました。ウツを患っている友達の苦しみも少しでもわかって、いい経験でした。でももう二度と味わいたくはないです‥。皆さんがもしも抑うつ状態になった時には、話を聴いてあげることだけはいくらでもできますから、声をかけてくださいね～。私は無口なだけに、聞き上手、ですよお！



フォレスト・カーター 著　・　和田穹男 訳　・　めるくまーる

リ ト ル・ト リ ー

この本はケイさんの貸し本屋「遊心堂」でお借りしました。

序文の冒頭に紹介されるのが、主人公リトル・トリーの祖母であるチェロキーインディアンの言葉です。

「なにかいいものを見つけたとき、まずしなくちゃならないのはね、それをだれでもいいから、出会った人に分けてあげて、いっしょに喜ぶことなの。そうすれば、いいものはどこまでも広がっていく。それが正しい行いってものなんだ」

チェロキーインディアンは、「からだの心 Body Mind」 と「霊の心 Spirit Mind」を知っていたそうです。先進国の現代人のなんと愚かで無知で強欲で傲慢なことかと、つくづく思いました。

この本は、アメリカで１９７６年に刊行され、若者達を中心に熱狂的に愛読されたそうです。帯には倉本聰が「山から噴き出す清冽な湧水に身体から心まで洗われた気がした。」と書いています。私には、大きな風が身体の周りと身体の中を吹き渡っていった気がするなあと思えました。帯の裏面にも「気持ちいい風に吹かれているようだ」と書かれています。読み終わるのがほんとうに惜しい一冊でした。

前述のお祖母さんの言葉は、普遍的なものでもありますし、ま～ゆの精神にもつながると思います。前号の会報でバクちゃんの文章を読み、後を継いで、書いてみたくなったのも、そのせいかもしれません。続きをどなたかが書いてくださるといいな、と思います。

ま～ゆのエコごころ

会報

今号は紙の質が変わったことにお気づきでしょうか？。近くのホームセンターの売り場では以前からのＰＣＣ用紙が他のメーカー紙に入れ替わっているので、不安ながらこれを買ってきたのです。ところが、この品は名の通ったメーカー製で〝古紙40％＋植林木60％〟と明記され、「本製品は資源の有効利用につながる古紙パルプと、地球温暖化防止に役立つ植林木パルプ(毎年計画的に植林と収穫を繰り返し、森のリサイクルを行っている)を複合しています」と説明書きもあり、値段はともかく(大量に使うだけに)環境に配慮した紙に替わるのは喜ばしいことと思います。近年、偽装のニュースが幅を利かせて(?)いますが、インターネットで確認したところでは信用できそうです。

会報では、38号から環境に配慮した印刷を採り入れています。プリンターは1万数千円のスタンダードクラスながら、性能はハイクラス。ただし「割高な交換インク」だけは不満でした。でも〝補充インク〟を使うことによって一個の純正インクタンクを三回も使い回せる(トラブルは全くなし)ことを確認しました。コストもカートリッジも激減です。

さらに〝インクセーバー〟というソフトを見つけて、これを試したところ「良いことずくめ」の優れものだったのでこれも導入しました。インクの噴出し量を二割減らすと、補充インクとの相乗効果で印刷コストを三分の一にまで落とせました。また、刷り上がりがいくらか薄くなる(調整可能)ために裏写りしない効果もあります。

アースデイ

このイベントに「ま～ゆも参加」を世話人会で決めました。「ま～ゆ自慢のイガチクでおやきを作って売ろう」。「それでは」、「具はあんこと切干大根の油炒め」、「70個ほど作ること」、「値段は80円」と、話しは順調に進んで行きました。ところが、大ざるに並べるとき、「おやきの下に敷くもの」でハタと行き詰まりました。笹っ葉が好ましくても、柏や桜の葉にしたくても この時期では調達不能なのです。すったもんだの上で、和菓子を包む経木を採用することが決まり、「私が買ってきます」とごんべえさんが引き受けました。

これがとんだ安請け合いで、包装資材の問屋に買いにいったら「500枚でなければ」と言われ、「じゃあ菓子屋さんに」と目をつけたのが鯛焼き屋でしたが…。頑固者のそこのオヤジが「売るわけにゃいかねえ」とけんもほろろ、取り合ってくれません。でも、そこはごんべえさんのこと、拝み倒してようやく20枚 分けてもらって一件落着。

アースデイの趣旨に則って、ここまで自然素材にこだわったのは正解でした。会場では、どこの売場も 使い捨ての容器等を置いてありません。そして私が買った おむすびはフキの葉に載せて渡されました。これには「負けたねぇ」と思いました。

マイ皿を持参することで、「食べ終わったら洗えるのかな？何枚も持っていくのもやかましいし…」で、またまた世話人会らしい激論(?)が交わされました。妙案・珍案がいろいろ出てきて まとまらないのが面白いところ、いつものように「それぞれの判断にお任せ」に落ち着きました。その中で都々平の都々平らしい提案は(採用されませんでしたが)、究極のエコと今でも信じていますのでご紹介しましょう。

それはズバリ、〝皿を舐める〟です。はいご退屈さま

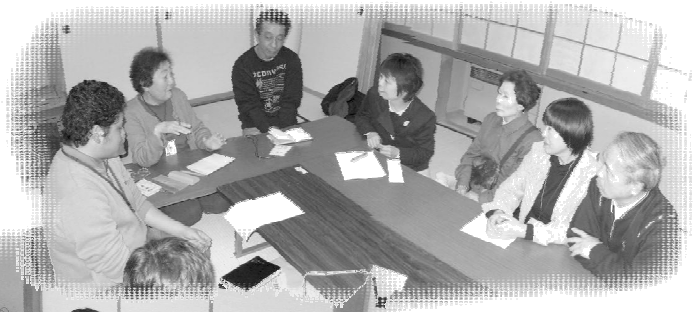
蘭亭 都々平 でした

街の気軽なマルチメディアショップ
㈲ **伸和印刷** No.57 中澤
●ご利用金額の10%まで「ま～ゆ」をお使いください
●今、流行りの自分史を作ってみませんか?
●会議資料作りに便利な、製本機能付き
高速デジタルコピー機導入しました
上田市国分1-7-12
TEL22-7710 Fax22-7718

荒井ハリ治療室 No.194 まめちゃん(荒井)
●まめちゃんの健康相談室
体の構造とルールに照らし合わせて、あなたの体のことを考えてみましょう。
●相談には500ま～ゆをお使いください。
●治療にはま～ゆを25%使えます。
●予約は電話で。
上田市踏入 2－15－10
TEL0268-24-5627

新しい顔ぶれ続々と

4 月のま～ゆ市は〝フリートーク〟



↑「好きな色は？」
に花が咲きました。

もっぱらお酒の話？↑

写真は神妙な面持ちですが、
この後大いに盛り上がって
いました。　　→

大盛況！3月のま～ゆ市

↑

←子連れさんの中にご常連さんが混じって
盛んにま～ゆ交換がありました。

お花見は 日中交歓会

留学生５名が入会しました。

上手に日本語で話す中国の人と
おぼつかない中国語を使いたがる日本人と

↑まだつぼみの「カスミザクラ」
←もう散ってしまった「ソメイヨシノ」

6月のま～ゆ市

10日(火)　夜７時から
市民プラザゆう２階

味噌用大豆蒔き

６月中旬予定　ML で発信します

7 月は
ま～ゆ市 兼

夏まつり 生ビール大会

7月13日(日)
吉崎酒店裏庭
詳しくはま～ゆ通信で

ホタルと歌うタベ 6月末日(予定)

世話人会

5 月は **27** 日(火)
夜７時から
場所は 寿限無

誰でも、その時だけでも世話人です

都市・建築工房 No.130ヒデさん(竹内秀夫)

- 一級建築士事務所
- トラブルが多いリフォームだからこそお任せください
- 朝日新聞のリフォーム記事を無料で差し上げます
- 地元産木材を使ったローコスト環境住宅の設計料の5%まで「ま～ゆ」が使えます。

上田市御所 274
TEL0268-28-7532
http://www6.ueda.ne.jp/~toshiken/

七田チャイルドアカデミー上田教室 No.11竹田

- 体験レッスンの20%まで「ま～ゆ」をお使い下さい

上田市中之条101-1利幸第2ビル201号
TEL23-2952

代 表　安 井 啓 子
ま～ゆ 連絡先　前 田 光 俊
〒386-0041
上田市 秋和 503-6
TEL 27-1230

ホームページ
(検索エンジンで 地域通貨 ま～ゆ を開いてください)